

都市再生整備計画(第2回変更)

東鯰崎駅周辺地区

兵庫県 たつの市

令和3年2月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	兵庫県	市町村名	たつの市	地区名	東葦崎駅周辺地区	面積	25 ha
計画期間	平成29年度～令和3年度	交付期間	平成29年度～令和3年度				

目標
【大目標】交通結節機能の強化と一体となった駅周辺における“賑わい・交流”の創出
【目標1】利便性向上を図るための都市基盤施設整備
【目標2】賑わい創出に向けたコミュニティの形成

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 たつの市は兵庫県の南西部に位置しており、龍野市、新宮町、揖保川町、御津町の1市3町の合併により誕生し、平成27年10月で10周年を迎える（平成17年10月1日合併）。東西方向には山陽自動車道・国道2号・国道250号、南北方向には播磨自動車道・国道179号が通過し、またＪＲ山陽本線、ＪＲ姫新線が運行され、阪神間も通勤圏内となっている。 本市ではこれまで自然・歴史・文化を生かしたまちづくりを進める一方、生活拠点間を連結する交通ネットワーク形成に向けた幹線道路の整備促進、コミュニティバスの運行再編、交通結節点の機能強化を図るＪＲ姫新線本竜野駅と播磨新宮駅の駅舎橋上化等の周辺整備、ＪＲ姫新線輸送改善事業として列車の高速化やＪＲ姫新線の利用促進活動、ＪＲ竜野駅の駅構内バリアフリー化による都市機能の充実など、都市基盤づくりを進めてきた。 今後の急激な人口減少や少子高齢化の進展に対応するため、コンパクトシティ化が求められているが、本市においても平成27年12月に改定した「たつの市都市計画マスタープラン」において、市街地における都市機能及び生活利便施設の集積と居住の誘導による持続可能なまちづくりの推進、地域拠点間の交流と連携を図るための拠点間を結ぶ交通ネットワークの構築・充実、高齢化社会に対応するため鉄道やバス等の公共交通機関利便性の向上など多極ネットワーク型コンパクトシティの実現を目指すこととしている。 本地区は、市域で最も公共施設や商業施設の集積度が高い龍野地域の都市交流拠点（中心核）の北端に位置するＪＲ東葦崎駅を中心とした地域住民の公共交通の拠点となる市街地である。 本地区の周辺には、西播磨地域の伝統産業である「手延べそうめん」の伝統の技と味わいが体験でき、年間12万人の観光客が訪れる「揖保乃糸資料館 そうめんの里」をはじめ、素戔神社（大神神社）、国指定天然記念物葦崎ノ屏風岩や葦崎磨崖仏などの観光資源が数多く点在している。ＪＲ東葦崎駅は、これらの観光拠点への玄関口となる機能を有している。 ＪＲ東葦崎駅は東側に駅舎、改札口があり、周辺には南側に駐輪場があるものの駅前広場やアクセス道路等が未整備なことから、特に朝夕の通勤通学時間帯には送迎車の駐車による周辺道路の混雑や、歩行者・自転車との錯綜が見られるなど危険な状態となっている。また、駅周辺には地域住民等が交流する場所や日常的な買回りのための商業施設等も少ないことから、活力に乏しい状況にあり、平成25年度に実施した地域住民に対するアンケート調査でも、この問題に係る意識が高く、その改善が強く求められている。 これまで、ＪＲ本竜野駅・播磨新宮駅の橋上化等の整備、快適で利用しやすい駅周辺整備とＪＲ姫新線の高速化などを推進してきたところであるが、ＪＲ東葦崎駅周辺の整備については未着手の状態となっており早急な取組が必要となっている。 現在の状況を踏まえて本地区では地域住民で構成する「東葦崎駅周辺地区地域活性化推進委員会」を立ち上げ、本地区のまちづくりの検討やコミュニティの形成を行ってきたところである。その一環として、地域活性化のために、駅前青空市や東葦崎駅祭り等のイベントを開催している。 ＪＲ姫新線沿線市町で構成される「姫新線利用促進・活性化同盟会」では、沿線住民と一体となってＪＲ姫新線利用促進運動の推進しており「姫新線チャレンジ300万人乗車作戦」として利用者等への助成する利用増進キャンペーン、イベント列車や沿線ふれあいハイキングなど活発な運動を展開してきた結果、平成27年度において、約301万人に達している。 課題 ・多極ネットワーク型コンパクトシティの実現に向けて、駅前広場や車両と歩行者・自転車が安全・快適に通行できるアクセス道路の整備等を行い、駅利用者の利便性向上や交通結節機能の強化を図る必要がある。 ・地域同士や来訪者も含めた多様な交流を深める拠点（コミュニティ施設等）の整備や地域コミュニティ活動に係る支援を行い、賑わいや活力を創出する必要がある。 ・交通結節機能の強化に合わせ、東葦崎駅周辺に位置する観光資源との連携を図る中で、地域の活性化を図ることが必要である。 ・「姫新線チャレンジ300万人乗車作戦」として取り組んできた成果を、今後においても沿線住民と一体となって継続する必要がある。 将来ビジョン（中長期） ・「たつの市建設計画」では、まちづくり施策として5つの柱と、それぞれの主要施策を体系的に定めているが、柱の1つに「活力あふれる交流と連携のまちづくり」があり、その主要施策として道路ネットワーク整備、公共交通の充実、市街地整備などが位置づけられている。 ・「第1次たつの市総合計画」では、「自然と歴史と先端科学が調和し一人ひとりが輝くまち」をまちの将来像として施策の展開を図っている。この中で「ＪＲ東葦崎駅周辺のまちづくりの基本となる「活力あふれる交流と連携のまちづくり」については、交流拠点間の交流と連携を深め、市の一体感を創出するため、南北をつなぐ幹線道路の整備を軸に、道路ネットワークの構築と身近な道路の充実などを推進し、鉄道・バス等の利便性や輸送力を高めるとともに、駅前、駅周辺の整備を行うことにより結節点機能を強化し、交通機能の充実を図ることとしている。また、コミュニティ活動を支援し、行政と市民との協働による市民参加のまちづくりを目指すこととしている。 ・「たつの市都市計画マスタープラン」では、交流と連携による快適で暮らしやすい安全なまちづくりの一環として、ＪＲ本竜野駅周辺、ＪＲ播磨新宮駅周辺、ＪＲ竜野駅周辺とともにまちの顔を創出するエリアとして位置づけられている。また、利用者の利便性の向上を図るため、駅前広場の整備を検討するとともに、駅周辺地区については、交通結節点の機能強化と併せた周辺整備を推進するエリアとして位置づけられている。 平成28年度に策定予定である『立地適正化計画』及び『地域公共交通網形成計画』により、市民が安心して快適に生活できる環境を有した持続可能なまちづくりに向け、居住と都市機能の誘導と地域公共交通の再編の連携により、利便性の高い公共交通で結ばれたコンパクトなまちを進めていく。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
市街地環境に係る満足度	%	地域住民に対するアンケート調査（東薺崎駅に玄関口としての愛着や誇りを感じるか）に対して、「感じる」「少し感じる」と回答した人の割合	交通結節機能の強化（社会資本整備総合交付金を活用）と一体となった交流機能等の整備により、東薺崎駅周辺の市街地環境に係る住民の満足度を高める。	36.0	H25	50.0	R03
活動回数	回/年	主に東薺崎駅周辺を舞台に活動を展開する「東薺崎駅周辺地区・地域活性化推進委員会」の年間活動回数	交通結節機能の強化（社会資本整備総合交付金を活用）と一体となった交流機能等の整備により、東薺崎駅周辺における活動回数の増加を目指す。	20	H26	27	R03
イベント参加者数	人/年	東薺崎駅周辺に位置する磨崖仏、薺崎の屏風岩、素薺神社等を巡るハイキングイベント参加者数	交通結節機能の強化等にあわせたＪＲや周辺観光資源との連携強化により、鉄道利用の来訪者を周辺観光資源へと誘うことで、イベント参加者数の増加を目指す。	310	H28	340	R03

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
・利便性向上を図るための都市基盤施設整備 ・交通結節点機能強化及び円滑な交通処理を行うために、道路、駅前広場の整備を行う。 ・立地適正化計画を作成し、居住や都市の生活を支える機能誘導によるコンパクトなまちづくりを進める。 ・高齢化社会への対応、地域住民の移動手段確保、公共交通機関の利便性向など地域拠点間の交流と連携を図るため地域公共交通網を再構築し、交通ネットワーク形成を推進する。 ・利用増進キャンペーン、イベント列車や沿線ふれあいハイキングなど活発な運動を展開し、沿線住民の通勤通学など重要な役割を果たす公共交通機関として利用促進に向けた積極的なPR活動を行う。 ・地域拠点間の連携及び交通ネットワーク形成を図るため道路の整備を行う。	・市道東薺崎停車場大住寺線整備(関連事業) ・東薺崎駅前広場整備(関連事業) ・立地適正化計画作成(関連事業) ・地域公共交通網形成計画作成(関連事業) ・姫新線チャレンジ300万人乗車作戦(関連事業) ・事業効果分析調査(提案事業/事業活用調査) ・駐輪場整備(基幹事業/地域生活基盤施設/駐輪場)
・賑わい創出に向けたコミュニティの形成 ・多様な人々の交流や各種イベントの開催による賑わいの創出を目指し、駅舎や駅前広場に隣接する空地等を活用して緑地広場を整備する。 ・誰もが地域のことを理解できるように、分かりやすい案内板の設置を行う。 ・地域住民が集い交流を深め、地域の活性化を支援するため交流拠点施設として、既存の駅舎を地域コミュニティ施設として整備する。 ・事業後のまちづくりを見据え、地域のまちづくりを地域で考えることができるよう「東薺崎駅周辺地域活性化推進委員会」の支援を行う。 ・駅周辺の活性化や人々の交流を支援するため、地域住民や来街者がふれあう駅前イベントを開催する。 ・姫新線沿線高校生が「JR姫新線の駅舎を明るくし、乗車するのが楽しくなるデザイン」をテーマに、駅舎壁面へ設置するアート作品を制作し、利用者をはじめとする多くの人に姫新線への愛着(マイレール意識)を持てるようにすることで、利用促進、活性化を行う。	・駅前緑地広場整備(基幹事業/地域生活基盤施設/広場) ・観光案内板設置(基幹事業/地域生活基盤施設/情報板) ・地域コミュニティ施設整備(基幹事業/既存建築物活用事業/地域交流センター) ・地域活性化推進委員会活動支援(提案事業/まちづくり活動推進事業) ・東薺崎駅まつり支援(関連事業) ・姫新線駅舎の沿線高校生ミニギャラリー(関連事業) ・事業効果分析調査(提案事業/事業活用調査)

その他 ○まちづくりに向けた地元の熱意 ・地域住民で構成した「東薺崎駅周辺地区地域活性化推進委員会」が主体となり、本地区のまちづくりについて検討を行っている。また、地域活性化のために、駅前青空市や東薺崎駅祭り等のイベントを開催している。 ○その他の団体の活動 ・「JR姫新線沿線市町(姫路市・たつの市・佐用町)で構成される「姫新線利用促進・活性化同盟会」では、JR姫新線利用促進運動の推進しており「姫新線チャレンジ300万人乗車作戦」として活発な運動を展開し、沿線住民の通勤通学など重要な役割を果たす公共交通機関として利用促進に向けた積極的なPR活動を行い、300万人達成した成果を、今後においても沿線住民と一体となって継続する。 ・JR西日本では、「地域との共生」の実現に向けて、地域との交流、連携を進めており、地域に密着した駅づくりを目指してJR社員OBを「名誉駅長」として配置し、ボランティアとして地域に親しまれる活動を行っている。 ○事業終了後の継続的なまちづくり活動 ・地域住民と市が協働でまちの維持管理を行っていく。 ・本計画に位置づけられた事業を契機に、地域への愛着を育み、「まちづくりの実施」から「まちづくりの持続」へと発展させる。 ○市のまちの将来への取組み ・今後、本市においても人口減少が見込まれており、まちの将来に向け、高齢者や子育て世代など市民が安心して快適に生活できる環境を有した持続可能なまちづくりに向け、各地域の拠点を軸とした居住や都市の生活を支える機能誘導によるコンパクトなまちとして「多極ネットワーク型コンパクトシティ」を目指し、コンパクトシティの実現に向けたまちづくりと連携して地域公共交通ネットワークを形成した「コンパクトシティ プラス ネットワーク」のまちづくりを進めていく。
--

(金額の単位は百万円)

...A

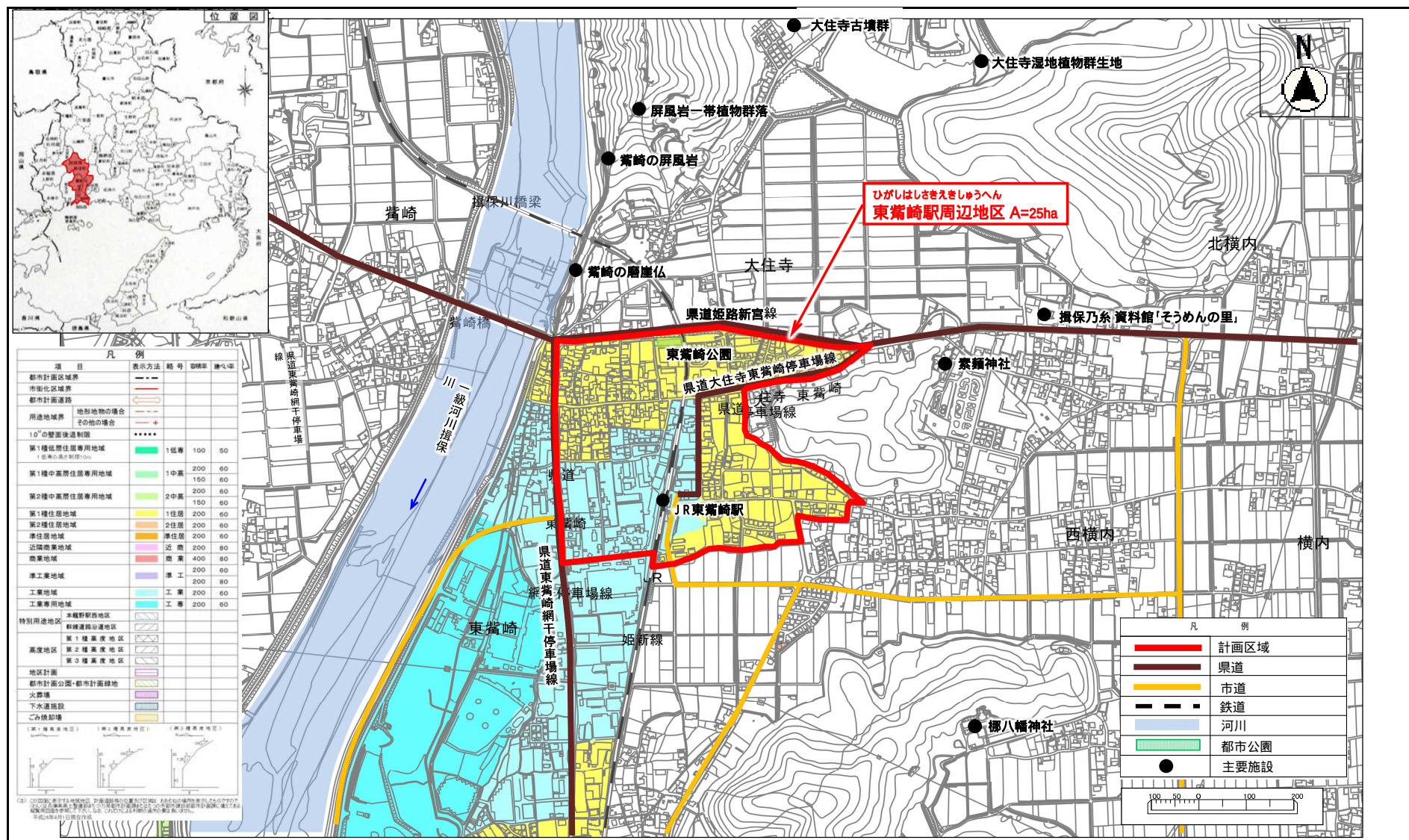
3...B

84.2

232.0

都市再生整備計画の区域

東鯉崎駅周辺地区(兵庫県たつの市)	面積	25.0 ha	区域	神岡町東鯉崎の一部、神岡町大住寺の一部
-------------------	----	---------	----	---------------------



東鶯崎駅周辺地区（兵庫県たつの市）整備方針概要図

目標	交通結節機能の強化と一体となった駅周辺における“賑わい・交流”の創出	代表的な指標	市街地環境に係る満足度（％）	36.0	（H25年度）→	50.0	（R3年度）
			活動回数（回）	20	（H26年度）→	27	（R3年度）
			イベント参加者数（人/年）	320	（H28年度）→	340	（R3年度）

